

教育実践研究Ⅰ・現場で学ぶ生徒指導領域実習

夏休み期間中、大学院1年生のストレートマスターは教育実践研究Ⅰ・生徒指導領域実習を行いました。グループごとに、フレンドリーあいぱる大江教室と本荘小学校フレンドリーオンラインに3日、清水が丘分校に4日の実習を行いました。児童生徒やサポートする先生方から多くのことを感じ、他ではできない学びの多い7日間の研修となりました。



フレンドリーあいぱる大江教室

不登校の子どもたちの社会的自立を支援するフレンドリーあいぱる大江教室で研修を行いました。教科学習や、スポーツやものづくり、体験活動と一緒に行いました。休み時間もゆっくり話をして触れあうことができました。



本荘小学校フレンドリーオンライン

学校への登校が難しい児童を対象に、教育ICTを活用してオンライン学習を支援する本荘小学校で研修をしました。画面の向こう側の児童が楽しんでくれるように、得意なことや好きなものを伝える授業を一人一人が行いました。



熊本県立清水が丘学園

児童自立支援施設である熊本県立清水が丘学園で研修を行いました。授業や部活動などの様々な活動で触れあうことができました。10月4日には体育大会にも参加し、児童生徒と気持ちよい汗を流し、交流を深めました。

参加したストレートマスターの声・・・「生徒支援や指導方法を学ぶことができ、教職に就きたいという思いが高まりました。」「一人一人に合わせたサポートが行われ、自分のペースで学び、成長できる環境を実際に見ることができました。」「改めて子どもたちとのコミュニケーションの取り方や、生徒の感情や行動を理解する大切さを感じました。」

P1院生 による 授業紹介

ネット教育 コミュニケーション論

インターネット社会におけるトラブルであるネット依存やネットいじめに焦点を当て、これらの課題に対応する教育をどのようにおこなっていけばよいかを学んでいます。様々なトラブルの事例を通じて、発生のメカニズムや予防教育のあり方について話し合いながら検討しています。インターネット社会が生徒に与える影響が大きくなる中、教員がネット社会における問題に迅速に対応できるスキルを身につけることが、児童生徒たちが情報スキルを健全に活用できる力を育てるために重要だと感じています。



(P1 岩佐祐子)

P2院生 による 研究紹介

生徒のつぶやきを生かした 数学科授業の研究

これまでの自分の授業実践を振り返り、生徒が主体的に学ぶためには、生徒の「つぶやき」を視点とした授業改善が有効ではないかと考えています。そこで私は中学校数学科授業において、ロシアの心理学者ヴィゴツキーの理論や先行研究をもとにして、生徒の「つぶやき」を引き出すための手立てを行い、「つぶやき」を授業にどう生かすのかについて研究しています。この研究を通して、自分の考えを軸として考えたことを表現し、他者と協働しながら課題解決に向かう生徒の育成を目指しています。



(P2 吉安幸子)